

ヒロオビミドリシジミ の 保護

東 正 雄

1974年（昭和49年）7月27日付朝日新聞の記事によると“ナラガシワの群落無残”大阪能勢の三草山と題して珍蝶ヒロオビミドリシジミの採卵の為に三草山標高564mにはナラガシワの大群落があるが能勢の自然と文化を守る会（代表田和好さん）の調査では高さ約20m、幹の直径20～30cmのナラガシワの成木数百本の群落のうち約50本が高さ50cm～1m付近でのこぎりで切り倒されていた。「人の山を荒らして、それでも昆虫を愛するといえるのでしょうか」と地元の人々は怒っている。この記事を読んで筆者は蝶類研究・採集家は大いに反省すべきで大変な悪徳行為であると思っていた。

本年1976年（昭和51年）6月20日、K学院の採集指導のため現地へ出向した。丁度成虫の発生期であったらしい30人内外の採集家（学生や社会人で趣味の人らしい）かなり遠方（関東方面）の人達が成虫の飛び出す場所に集まっていた。立札が2ヶ所あった。「山の登山者たちはヒロオビミドリシジミ採卵の為にナラガシワを切り倒したりしたら見つけ次第警察に届ける、そして処罰せられる」と怒りの警告である。

この蝶は近畿地方や中国地方の局部的に分布していて既に川西市笹部は絶産（？）そこで三草山は分布の東限である。成化の時期が6～7月上旬で落葉高木のナラガシワに産卵する特性がある。♂の翅表は青味ある緑色、裏はうす褐色で白いW型の条によって広い帯に見えるのでこの蝶に名がつけられた。愛蝶家は6～7m位の繕ぎ網で採集に早朝から午前中まで熱中する。2～3匹採集すればよいのに何回と出向して競争して多くの個体数を採集するようである。蝶類の採集家は目的の蝶だけで他の昆虫類などは全く無関心である。植生との関係など相関関係を考察することなどしないのは実に科学する心の為の採集でない。蝶マニアである。切手蒐集マニアに近いように思った。全国の代表的な蝶（珍・稀）ばかり集める結果となる。科学に貢献する為の採集であり、研究であってほしいと思いつつ帰途についた。

三草山の生態やナラガシワの群落がこの稀な蝶の生息に最もよい環境を与えている。この珍蝶を永久に保存するナラガシワの原生林がほしいと思う。

（1987年8月受領）